

# 難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

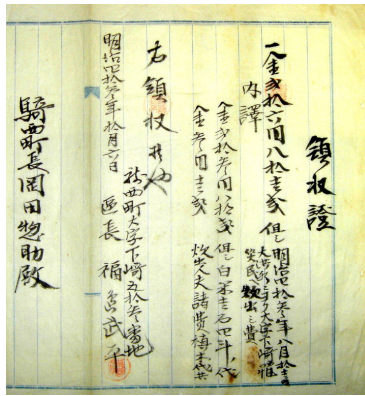
平成23年3月1日発行  
編集・発行/富士見市立難波田城資料館  
**第 47 号**  
NEWS from NANBATAJYO

## 明治43年の米一升は17銭 —水害時炊き出しの記録—

市民学芸員 小森 和雄



荒川西遷・利根川東遷前(江戸時代)



炊き出し領収証



現在の荒川・利根川の流路

明治43年(1910)、荒川や利根川が決壊し、東京が大洪水に襲われました。これを契機に、帝都を守るため荒川放水路が建設され、荒川や新河岸川、更に中川が改修され、新中川(放水路)も建設されました。その結果、帝都だけではなく、かつては水害常襲地帯だった「南畑(難波田)」は、現在のように豊かな土地になりました。江戸時代、水害に襲われるのは、地名の文字が悪いからだとして、南畑への変更を幕府に申し出た当時の村民の先見性に脱帽します。

南畑地域の水害については「難波田城だより」平成22年9月号(昭和16年水害の思い出)・12月号(大宮側から見た川向こうの古老の話)で述べられていますので、私が中学生の頃昭和30年代に入手した水害に関する資料について紹介します。

その資料は、明治43年に利根川が決壊し、水害となった騎西町(現在、加須市)の町長に対し、炊き出しを行なった地元の区長(現在でいえば町会長)が、その代金を受領したという和紙の領収証です。この領収証によれば、白米1石4斗が23円80銭と記されていますから、米1升は17銭だったことが判ります。

この文書は、父が騎西町の酒蔵に勤めていた時、コヨリ用の古紙として、町役場から貰い受けていたものでした。水害から50年後に私の手元へ、その50年後の平成19年、郷土資料として騎西町へ寄贈し、保存されることになりました。

私は難波田城資料館の前は水子貝塚資料館で3期9年間活動しました。そこで、太古には、利根川と荒川は熊谷辺りで合流し、現在の荒川付近を流れていたということを知りました。その後、荒川の運ぶ堆積物で扇状地が形成され、利根川とともに東に転じ、中川低地へ流れるようになり東京湾へ注いでいました。本流は利根川で荒川は支流でした。

徳川家康が入府してから、江戸を水害から守るため、利根川と荒川とを切り離し、利根川を太平洋に流す利根川の東遷、荒川を入間川筋に流す荒川の西遷が行なわれ現在の流れとなりました。

水子貝塚が栄えた縄文前期(5500~6000年前)には、難波田城のある場所は古入間湾と呼ばれ「海」でした。その後、海が現在の東京湾の方向へ後退していくと陸地となり、弥生時代から水田が開かれたということです。

富士見市には水子貝塚と難波田城という野方(台地部)と里方(低地部)を代表する遺跡があり、両資料館で活動することで先史時代から現在まで、野方・里方の特徴を知りました。3月から難波田城では春季企画展「水害と闘う」が始まります。太古の昔からの歴史に思いを馳せながら、畦の草木に春の到来を感じながら、水子貝塚・難波田城と遺跡巡りをしてみては如何でしょうか。土日祝日は市民学芸員がガイドします。皆様のご来館をお待ちしています。

# 古民家のなつわし 春編

## ひな祭りの話

当館では毎年二月から四月初めにかけて段飾りの雛人形を展示しています。ひな祭りの起源などを調べてみました。

①さかのぼると「上巳の禊・祓」が起源といわれ、かなり早い時期に中国から伝わったといわれています。大宝令（七〇一年制定）でも三月三日を「節日」と定めています。

②「お雛様」（雛人形）も、その上巳の日などに、邪気を移して悪霊を取り除くために用いられた一日かぎりの人形（ヒトガタ）が、次第に精巧になり保存されるようになったとされています。

③雛人形が庶民の間に広まったのは江戸後期のことで、当館で飾られるような段飾りセットが普及したのは明治時代に入ってからともいわれています。

④ひな祭りは「桃の節句」ともいわれます。「古事記」に、黄泉の国から逃げ帰るイザナギノミコトが桃の実で追手を退けたという話があるように、昔から桃には邪気を祓う特別な力があるとされています。

女の子の健やかな成長を祝うひな祭りはいかにも春らしく、華やかで楽しい年中行事となっています。



江戸時代のおひな様  
『江戸年中行事図聚』より



旧金子家に展示中のおひな様

## おもしろ・なつかし体験 ③

### お爺ちゃんも楽しい綿くり体験

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

1月23日(日)午後、古民家ゾーンへ再訪してみると、午前中に賑わっていた金子家でのマユ玉だんご作りは一段落し、かわって綿くり体験が始まっていました。

金子家の縁側に2台の綿くり機を置き、市民学芸員が子どもと向かい合いながら手ほどきをしています。丁寧にやさしく、しかもそうっと。これは実に爺ちゃんと孫の構図です。子どもの表情もさることながら、爺ちゃんの笑顔の美しいこと。何もかも忘れ、日当たりの良い縁側で孫と遊ぶ。目の前には広い庭が広がります。今の住宅事情では、お日さまのサ

ンサンと当たる縁側は宝物に感じられます。ただの日向ぼっこもいいのですが、こうして難波田城公園でちょこっと体験を通し、子供たちと至福の時間を共有できることは、市民学芸員の特権ではないでしょうか。じいちゃん、ばあちゃんの私達が楽しいのに、子供達もまんざら悪い気はしないはずと想像します。本来、ちょこっと体験は来園者のためのものと思いますが、お手伝いする市民学芸員にとっても上質の体験ではないでしょうか。



わたくりを教える市民学芸員

## 人の創った道具★人の使った道具

このコーナーでは、当資料館所蔵の資料を紹介いたします。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

# 水害と水害舟

平成23年3月12日から5月22日まで開催する春季企画展『水害と闘う～富士見市の洪水被害と今～』の展示資料の一部を紹介します。

### 水害にあいやすい

富士見市は、大きく分けると、台地と低地に分けられます。そのうち、低地の地域には、荒川・新河岸川・柳瀬川が流れ、常に水と関わってきました。河川の水は、水田などに恵みをもたらしますが、ひとたび大雨が降ると、氾濫をおこして低地の民家や田畑を襲いました。

### 水害に備える

そこで、低地の人々は川が氾濫しても助かるように、様々な対策をしてきました。その一つが水塚（みづか、みずづか）です。現在、水塚を残している家は少なくなりましたが、過去の洪水時には多くの人達の命を助けてきました。水害後はしばらくの間、一面が水びたしになります。そのため、避難した水塚や母屋の屋根から移動するための手段が必要になります。それが、水害舟（出水用舟）です。

### 水害舟

水害舟は、水害に備え、普段は納屋の軒下や屋根裏に逆さにつるしてあります。これを「上げ舟」と呼びます。雨が大量に降り洪水になりそうな時には、外に出し、雨にさらしました。そうすることで、乾燥した部材が膨らみ、浸水を防ぎました。

舟と言えば、舟運の高瀬舟を思い浮かべますが、



個人宅（市内下南畑）の納屋に下げられた水害舟

高瀬舟は長さ12～15m、幅3.6mほどの平底の舟で、米200～300俵を積めるものが多かったようです。しかし、水害舟は小形で、全長が3m～3.6m程度、幅が約75cm、深さ約30cmの大きさです。

### いつから使っていた？

水害舟は、いつから使われていたのでしょうか。古文書を見ると、江戸時代の後半には常備する家があったようです。当時、舟は荒川用、新河岸川用、出水用として分けられ、それぞれの数を報告する必要がありました（大澤家文書829、横田家文書1854）。商売用の舟（高瀬舟）は鑑札（所持の許可証）が必要であったため、許可に費用がかかります。しかし、この地域に住む人達にとって、水害舟は必要不可欠であったため、水害用の舟まで鑑札を受けると、負担が増えることになりました。そのため、緊急用で常に使用しない舟については、出水用舟（水害舟）として鑑札免除を願い出ています（大澤家文書250）。



### 当館に寄贈された水害舟

明治43年（1910）の大水害直後の大正元年（1912）につくられました。

### 水と共に生きる

近年は治水整備のおかげで水害が少なくなり、住みやすくなりました。そして、水害舟も使われなくなりました。

水害に悩まされながらもそこに住む理由は、先祖代々受け継いできた土地である、水のもたらす恵みがある、周りの人とのつながりがある、都心に近いなど色々あります。だから、水害舟や水塚を用意してまで住む価値のある場所なのです。

# \*\*\*春のイベント予定\*\*\*

## 平成23年春季企画展「水害と闘う」～富士見市の洪水被害と今～

**3月12日(土)～5月22日(日)**  
**会場／資料館特別展示室**

明治の大洪水から100年が経ちました。戦国時代から昭和・平成にいたるまで、それぞれの水害のようすと人々のたたかいをたどります。

ぜひ、ごらんください。

### 企画展関連講演会

#### 「メディアにみる明治43年の大洪水」

当時の絵葉書や新聞などを通して、明治43年の大洪水をふりかえります。

講師 領塚正浩氏（市川考古博物館）

会場 資料館講座室

日時 3月21日(祝)

午後1時30分～3時

参加費 無料

定員 30人（申込順）

### 企画展関連イベント

#### 歩いて探そう！～水塚と堤～

南畑から宗岡地区にかけての堤防と水塚を歩いて訪れます。

と き／3月26日(土) ※小雨決行

集 合／難波田城公園旧金子家前

時 間／午後1時～午後3時頃

主な見学地／山形樋管・竹ノ内堤跡・

竹ノ内第2ポンプ場・木染堤・

水塚（3箇所）・つくだ堤・

荒川堤防

定 員／25人（申込順）

参 加 費／無料

持 ち 物／飲み物・雨具など

解 説／難波田城資料館市民学芸員と

企画展担当職員

主 催／難波田城資料館

## ゴールデンウィーク（4月29日～5月8日）イベント案内

よろいを着てみよう、紙のかぶとづくり（有料）、コイノポリづくり、五右衛門風呂入浴体験（要水着・タオル）、その他新企画など、様々なイベントを行います。詳しくは、4月のイベント案内をご覧ください。

### 難波田城公園まつり

と き 6月5日(日) 午前10時～午後4時

※詳しい内容は、広報などでお知らせします。

### ちよっ蔵市

（難波田城公園活用推進協議会主催）

3月27日(日) 草もち

4月29日(祝) かしわもち

※販売は午前11時から。売り切れ次第終了です。

### 〈閉門時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の閉門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜日・日曜日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時（4月～9月） 午前9時～午後5時（10月～3月）